

地方独立行政法人明石市立市民病院
平成 29 事業年度及び第 2 期中期目標期間の終了時に
見込まれる業務実績に関する評価結果

平成 30 年 8 月

明石市

はじめに

1 頁

1 評価方法の概要

1 頁

2 平成29事業年度 全体評価

2 頁

(1) 総評

(2) 評価にあたっての意見、今後に向けての提言等

3 平成29事業年度 項目別評価（大項目評価）

4 頁

4 平成29事業年度 小項目評価

別紙「地方独立行政法人明石市立市民病院平成29事業年度に係る業務実績の小項目に関する評価結果について」を参照

5 第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績 全体評価

8 頁

(1) 判断理由

(2) 評価にあたっての意見、今後に向けての提言等

6 第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績 項目別評価（大項目評価）

11 頁

7 第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績 小項目評価

別紙「地方独立行政法人明石市立市民病院第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績の小項目に関する評価結果について」を参照

8 第2期中期目標期間における評価結果の推移

14 頁

はじめに

市は、地方独立行政法人法第28条の規定に基づき策定した「地方独立行政法人明石市立市民病院の業務の実績に関する評価実施要領」により、地方独立行政法人明石市立市民病院（以下「法人」という。）の平成29事業年度及び第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績について総合的な評価を実施した。評価にあたっては、地方独立行政法人明石市立市民病院評価委員会条例に基づき、評価委員会に意見聴取を行った。

地方独立行政法人明石市立市民病院評価委員会 委員名簿

	氏 名	職 名
委員長	明石 純	関西学院大学 経営戦略研究科 教授
副委員長	日下 孝明	明石市医師会 顧問
委 員	横野 浩一	北播磨総合医療センター 病院長
	工藤 美子	兵庫県立大学 看護学部 教授
	武田 英彦	公認会計士

1 評価方法の概要

(評価の基本方針)

- (1) 法人が「患者中心の安全で高度な医療を提供し、市民の生命と健康を守り、市民からの信頼に応える」という基本理念を実現するため、提供するサービスその他の業務の質を向上させるとともに、業務運営の改善及び効率化を進め、財務内容の改善に資することを目的に評価を行う。
- (2) 法人の中期計画及び年度計画の実施状況を確認・分析し、明石市が示した中期目標をどの程度達成したかという観点から、実施状況や進捗状況を総合的に評価するものとする。
- (3) 数値実績のみにとらわれることなく質的要素にも着目して評価を行うものとする。また計画に記載していない事項であっても特色ある取組や様々な工夫については積極的に評価する。
- (4) 地域の医療状況や診療報酬改定など止むを得ない環境変化があった場合には、それに配慮して柔軟に評価するものとする。
- (5) 評価を通じて、中期目標の達成状況や法人の取組内容等を市民等にわかりやすく示すものとする。
- (6) 評価の方法については、社会情勢や環境の変化などを踏まえ、より適切なものとなるよう必要に応じて見直しを行う。

(評価の方法)

評価は、法人が業務実績について自己評価し、作成した業務実績報告書に基づき、「項目別評価」及び「全体評価」により実施した。

「項目別評価」では、法人から提出された業務実績報告書をもとに、法人からのヒアリング等を通じて、法人業務の実施状況を確認、分析を行ったうえで、業務の進捗状況及び特記事項の内容等を総合的に勘案して、5段階で評価した。

「全体評価」では、項目別評価の結果を踏まえつつ、法人化を契機とした病院改革の取組（法人運営における自律性、機動性の発揮、財務内容の改善など）を考慮しながら、中期計画の実施状況や進捗状況について記述式で総合的に評価した。

2 平成29事業年度 全体評価

評価結果「中期目標・中期計画の達成に向けて計画をやや上回って進んでいる」

(1) 総評

地方独立行政法人明石市立市民病院は、第2期中期目標期間の中間年度となる平成29年度において、第1期中期目標期間後半から業績が安定しつつあるなか、医師の増員・再編による診療体制の充実・強化や、顔の見える関係づくりによる地域の医療・介護等との連携の推進など、医療の質のさらなる向上を目指した取組が進められた。また、組織風土の改革や人事評価制度の本格的な運用等による構造改革の推進とともに、経常収支の改善により、経営基盤の確立に取り組んでいる。

診療体制においては、外科医の充実による手術件数の増加や内科系・外科系の2名による日当直体制による救急受入体制の強化等により、地域の中核病院として、求められる医療機能を高めつつ収入の確保につなげた。加えて、ベンチマークシステムやローコストオペレーション等の経費削減について、平成28年度から継続して取り組んだ結果、当期純利益は約4.5億円と3年連続で黒字を計上し、2年連続で年度中における資金残高の増加（増加額約3億円、平成28年度は9千万円）を達成した。

今後、中期目標・中期計画の達成に向けては、東播磨圏域において不足する回復期機能への貢献等、公立病院として変容する地域の医療ニーズに的確に対応とともに、平成30年度に中核市となり新たに設置されたあかし保健所との連携による保健衛生サービスの向上のための連携支援を期待する。また、将来へ向けた計画的な設備投資のための財源が確保できるよう、診療報酬改定など、医療・介護制度の変革に迅速に対応し、医業収益を一層高めていくことが求められる。

① 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

地域包括ケアシステムにおける新たな医療ニーズへの対応が今後一層期待されるなか、医師確保による診療体制の充実や内科の再編の取組が、診療報酬や救急受入件数の増加など、成果として明確に表れており、医療機能の明確化は進んでいる。

なかでも救急医療は、内科系・外科系の2名による日当直体制を確立したことによって受入患者数を前年度から大きく増やし（約21%増）、課題であったお断り率について目標を達した。

また、入退院支援センターの運用による患者、その家族等利用者へのサービス及びサポートの向上、地域医療支援病院としての後方支援、医療の質の向上を目指した多職種によるチーム医療の推進についても充実した取組がなされている。

今後の課題として、患者サービスの向上だけでなく、病床稼働率、ひいては収益確保にも関係するDPC情報のさらなる活用やクリニカルパスの適用率の向上を求める。また、医療安全及び院内感染防止対策については継続して徹底するとともに、地方独立行政法人法の一部改正に伴う内部統制制度等の構築の推進に期待する。

② 業務運営の改善及び効率化

常勤医師数は年度当初の59名を維持し、確保が難しい小児科医や臨床病理医を増員するなど計画どおり取り組んでいる。また、看護師の確保とその育成については、充実した取組を進めている。

経営管理機能については、理事長のリーダーシップが発揮され、医師をはじめ不足するスタッフの採用や医療体制の充実、地域医療の推進、収支改善等、諸計画の推進が図られている点は、経営陣が責務を果たした成果として評価できる。

また、プロパー職員への置換を進めるだけでなく、主体性を高める活動が推し量られている点や、人事評価結果を夏季一時金に反映させた点も評価できる。

さらに、購買・契約制度については、前年度から積極的な取組が行われ、成果が着実に表れており、コスト意識の醸成が十分に図られている。

今後の課題としては、第一に呼吸器内科及び麻酔科の医師確保があげられる。さらに、コメディカルの人材育成や、研修医の獲得を高めていくよう、初期臨床研修医プログラムのさらなる充実に期待する。また、人事評価制度の運用については、職員のモチベーションや労働生産性を高めていくよう、導入効果の分析と効果的な運用を目指した検討を求める。

③ 財務内容の改善

前年度から引き続き、充実させた診療体制のもと、地域包括ケア病床の活用による平均在院日数の短縮や入院診療単価の上昇に取り組み、病床稼働率について目標を達成し収入を確保したこと、ベンチマークシステムの導入やローコストオペレーションの実施など、経費削減に積極的に取り組んだ結果、3年連続で黒字決算を計上し、当初資金残高が前年度を約3億円（前年度は約9千万円）上回ることができた点は高く評価できる。

今後は、増収増益の要因についての分析を深め、労働生産性を重視したさらなる増収対策を求める。また、適切な投資計画を策定し、そのために必要となる自主財源の確保へ向け、引き続き経営努力に期待する。

(2) 評価にあたっての意見、今後に向けての提言等

- ・ 地域の医療介護機関との交流のツールであるオープンカンファレンスの充実を求める。
- ・ 給与制度について、法人全体の業績・部門の業績・個人の業績の3段階で捉える必要がある。賞与については個人別の査定評価が行われ前進したが、今後は昇給ペースや退職金についても、評価制度を組み入れた人事給与制度の整備が必要となる。
- ・ 資金残高の増減にかかわらず支出コントロールの実施は行うべきである。また、資金減少時こそ積極的な施策を探る必要がある場合が多い点も留意して実施して欲しい。
- ・ 増収増益の要因分析が必要である。また、体系的な経営の意思決定には部門別の収支管理が重要となる。
- ・ 適切な投資計画を策定し、そのために必要な収支やキャッシュフローのバランスを注視し、経営していく必要がある。

3 平成29事業年度 項目別評価（大項目評価）

大項目評価については、小項目の評価結果を踏まえながらも、あくまで中期目標・中期計画の当該年度の実施状況や進捗状況の観点から総合的に判断し、次の5段階による評価を行うものとする。従って、小項目評価の単純集計と大項目評価が整合しない場合もあり得る。

＜大項目の評価基準＞

（「地方独立行政法人明石市立市民病院の業務の実績に関する評価実施要領」より）

- S：中期目標・中期計画の達成に向けて計画を大幅に上回って進んでいる。
- A：中期目標・中期計画の達成に向けて計画をやや上回って進んでいる。
- B：中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおりに進んでいる。
- C：中期目標・中期計画の達成にはやや遅れている。
- D：中期目標・中期計画の達成には大幅に遅れている又は重大な改善すべき事項がある。

＜小項目の評価基準＞

（「地方独立行政法人明石市立市民病院の業務の実績に関する評価実施要領」より）

- 5：年度計画を大幅に上回っている。
- 4：年度計画を上回っている。
- 3：年度計画どおりである。
- 2：年度計画を下回っている。
- 1：年度計画を大幅に下回っている。

大項目		評価結果					
(中期計画 第1-1) 市民病院の果たすべき役割の明確化		B	地域包括ケアシステムにおける新たな医療ニーズへの対応が今後一層期待されるが、医師確保による診療体制の充実や内科再編等の効果は表れており、医療機能の明確化は計画どおり進んでいる。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	医療機能の明確化			●			
2	地域包括ケアシステムのなかでの役割の明確化				●		
3	災害等緊急時への対応				●		

大項目		評価結果					
(中期計画 第1-2) 高度な総合的医療の推進		A	救急医療について、内科系・外科系の2名による日当直体制を確立し救急車による搬入患者数を前年度から大きく増やし、救急車お断り率についても年度計画の目標を達している。また、地域包括支援センターに看護師を派遣する等、福祉施策との連携を進めている。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	急性期医療の総合的な提供			●			
2	救急医療の推進			●			
3	予防医療及び市と連携した政策医療				●		

大項目		評価結果					
(中期計画 第1－3) 利用者本位の医療サービスの提供		B	入退院支援センターの運用や予約センターの立ち上げ等利用者の視点に立ったサービス提供に取り組んでいる。接遇アンケートでは前年度を上回る結果を得る等サービス向上に努めている。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	医療における信頼と納得の実現				●		
2	利用者本位のサービスの推進				●		

大項目		評価結果					
(中期計画 第1－4) 地域とともに推進する医療の提供		A	市医師会との連携強化や、自院における地域医療連携に積極的に取り組んでおり、紹介率・逆紹介率とも中期計画の目標値を達成している。ホームページの改善等、情報発信にも努力している。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	地域医療支援病院としての役割の推進			●			
2	地域の医療・介護等との連携の推進			●			
3	地域社会や地域の諸団体との交流				●		

大項目		評価結果					
(中期計画 第1－5) 総合力による医療の提供		B	薬剤師の全棟配置等診療報酬加算がある取組以外にも、病棟看護師と管理栄養士の連携等、多職種による協働が積極的に行われている。DPC情報については今後さらなる活用を期待する。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	チーム医療と院内連携の推進			●			
2	情報の一元化と共有				●		

大項目		評価結果					
(中期計画 第1－6) 医療の質の向上		B	クリニカルパス適用率は目標設定値・実績共前年度を上回っている点は評価できる。院内連携の不足を原因とした医療事故の発生を防ぐための医療安全対策の徹底や、地方独立行政法人法の一部改正を受けた内部統制制度等の構築を求める。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	継続的な取組による質の向上				●		
2	医療安全や院内感染防止対策の徹底			●			
3	コンプライアンス(法令・行動規範の遵守)の徹底				●		

大項目		評価結果						
(中期計画 第2－1) 医療職が集まり成長する人材マネジメント		A	呼吸器内科や麻酔科等の医師確保、コメディカル等(看護師以外)の教育のさらなる充実が求められるが、常勤医師数を維持し、一般的に獲得が困難な臨床病理医を確保している点、看護部の教育システムの充実等は高く評価できる。					
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	
1	必要な医療職の確保			●				
2	魅力ある人材育成システム				●			

大項目		評価結果						
(中期計画 第2－2) 経営管理機能の充実		B	市派遣職員からプロパー職員への置換を進め、プロパー職員による主体的な事務担当リーダー会議を設置する等、計画どおりに取組を進めている。					
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	
1	役員の責務				●			
2	管理運営体制の強化				●			
3	事務職の役割の明確化と専門性の向上				●			

大項目		評価結果						
(中期計画 第2－3) 構造改革の推進		A	人事評価制度については、検証とより効果的な運用が求められるが、夏季一時金に反映する等取組を進めた。購買・契約方法は前年度に引き続き徹底され、取組の成果が財務に表れている。					
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	
1	組織風土の改革			●				
2	人事給与制度の整備				●			
3	購買・契約制度の改変			●				

大項目		評価結果						
(中期計画 第3－1) 業績管理の徹底		A	新入院患者数や入院診療単価など目標値を達成し、医業収益を確保できている。また、経営指標や分析資料の可視化など経費削減策について積極的に遂行されている。					
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1	
1	診療実績の向上による収入の確保			●				
2	支出管理などによる経費削減				●			

大項目	評価結果						
(中期計画 第3－2) 安定した経営基盤の確立	B	当期純利益について3年連続で黒字を達成し、資金期末残高は前年度を上回っている。将来を見据えた適切な投資計画を立て、今後は必要となる自主財源の確保に向けた経営努力に期待する。					
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1 経営収支の改善				●			
2 資金収支の改善と計画的な投資					●		

4 平成29事業年度 小項目評価

別紙「地方独立行政法人明石市立市民病院平成29事業年度に係る業務実績の小項目に関する評価結果について」を参照

5 第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績 全体評価

全体評価結果「中期目標・中期計画の達成に向けて計画をやや上回って進んでいる」

第2期中期目標期間においては、前期からの課題であった経営基盤の確立に向けて経常収支の改善に積極的に取り組んだこと、また、救急医療体制をはじめとする医療体制の充実や、重要課題である地域包括ケアシステムの推進に寄与するなど、地域医療支援病院としての役割を果たし、求められる業務全般について堅調に取り組んでいる。

(1) 判断理由

地方独立行政法人明石市立市民病院は、第2期中期目標期間において、前期の成果と反省を礎として、理事長以下全職員が一丸となり、懸案であった救急医療の強化や、地域包括ケアシステムにおける機能強化等、公立病院として求められるさまざまなニーズに対し、地域の中核病院として的確な対応を進めた。

また、病院の管理体制の改革については、課題であった新たな人事評価制度、人事給与制度の運用を開始させるなど、大きな一步を踏み出した。

さらに、前期では目標・計画に対する進捗が遅れている評価となり、重要課題とされた財務内容の改善については、診療体制の充実に加え、在院日数を注視したベッドコントロール等、地道な取組により収入を確保し、改変を図った契約・購買制度の徹底により経費削減に努めた。その結果として、平成29年度は4.5億円と、3年連続の黒字計上（平成27年度3億円、平成28年度3.2億円）を実現し、期末残高を増加傾向へ好転させた点は高く評価できる。今後この努力を継ければ期末にはさらに良い結果が得られると期待できる。

呼吸器内科及び麻酔科の医師確保や、救急患者の安定的な受入体制のさらなる充実、休床中の病棟の再稼働、地域で不足している医療機能への適切な対応など、今後の課題を踏まえ、総合的に評価した。

① 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

総合内科の新設をはじめとする内科系診療科の再編により、開業医からも紹介しやすい診療体制を確立させるとともに、外科では消化器外科における低侵襲で高度な手術への対応や整形外科の増員、耳鼻咽喉科の常勤医師確保による手術の再開等、急性期医療の総合的な提供の充実を図った。また、課題であった救急医療体制については平成29年度以降、内科・外科の日当直体制を確立したことにより、患者受入数を大きく増やすなど、計画達成に向けた取組を進めた。

入退院支援センターの運用による患者サポートの充実、地域医療支援病院として登録医を増やし、紹介率等については期間を通じて目標値を達成するなど、地域の医療機関との連携強化及び後方支援に積極的に取り組んでいる。

医療の質の向上を目指した多職種によるチーム医療の推進にも一定の取組は行わ

れているが、今後はDPC情報の共有、クリニカルパスの適用率の向上等さらなる充実を求めるとともに、地域包括ケアシステムの推進については、多様化する医療ニーズへの対応に向けた機能強化を期待する。

② 業務運営の改善及び効率化

急性期医療及び高度な総合的医療の水準を維持、向上させるべく努めるなか、人材確保については、耳鼻咽喉科、消化器内科、小児科、外科等の常勤医師を確保し、増患につなげるとともに、高度治療をはじめ手術件数を増やし、収入の確保を実現した。

人材育成では、看護師については充実しつつあるが、今後は、研修医のさらなる獲得に向けた医師初期臨床研修プログラムのさらなる充実を期待する。

また、プロパー職員については置換をはじめ、主体的な活動を進めるなど、育成を図っているが、今後はTQM活動の一環として検討を進めた院内教育システムに基づく院内研修の強化を図っていただきたい。

なお、人事給与制度については、社会情勢に適合した新たな給与制度の運用を開始し、平成29年度からは課題であった人事評価制度を夏季一時金に反映するなど、整備を大きく進めた。

③ 財務内容の改善

先述のとおり、診療体制及び救急診療体制を強化し、在宅療養後方支援病院として地域の医療機関との連携を強化したこと、さらには、DPC情報に基づき平均在院日数の適正化に努め、診療単価、病床稼働率ともに平成29年度には中期計画の目標値を上回るなど、理事長以下職員が一丸となって収入の確保に取り組んだ。

また、支出管理においては、平成28年度から、ベンチマークシステムの導入やローコストオペレーションの実施を継続して行い、組織風土として定着させ、経費削減を実現し、結果として、経常収支の黒字化を3年連続で実現し、資金期末残高の増加を2年連続で実現した点は高く評価できる。

今後は、医療を取り巻く環境が変化するなか、急性期医療を中心とした総合的かつ安定的な医療を提供していくこと、さらには将来の建替等を見据え、市との協議のもと、計画的な財源確保等が求められる。

(2) 評価にあたっての意見、今後に向けての提言等

- ・ 急性期医療を中心としながら、地域の医療・介護・福祉機関をさらに支援できるような体制にしてもらいたい。
- ・ 回復期リハビリテーション病棟の再開により、急性期から亜急性期、回復期の機能を総合的に担う市民病院としての役割が一層発揮できる。
- ・ 病院が総合性を発揮するためには、総合内科医がゼネラリストとなり要所で活躍する体制が不可欠である。また、ER型の救急体制も必要となっていくと思われるが、着実な推進を期待する。
- ・ 患者はもちろん、医師や看護師その他医療職が集まるような、魅力的なマグネット・ホスピタルを目指した病院づくりを進めること。

- ・ 質の高い人材が継続的に市民病院で活躍するためには、教育支援体制や給与システムをさらに充実させることが必要である。
- ・ 今後より一層経営改革を進めていく上で、労働生産性に着目した分析が求められる。
- ・ 医療設備については耐用年数が短く、日常管理が大切だが、小規模な不具合を見逃さない体制と計画的な保全計画が必要である。
- ・ 事務部門による情報の一元化にあたっては、病床情報やDPC関連情報に限らず、現場運営に関する諸情報についても一元化を図り、医療現場への共有促進にも期待する。
- ・ 院外研修への参加について計画的に進めて欲しい。
- ・ 管理運営体制の強化にあたっては、各部門の責任と権限を明確にするため、部門別の原価計算のさらなる活用を期待する。

6 第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績 項目別評価(大項目評価)

大項目		評価結果					
(中期計画 第1－1) 市民病院の果たすべき役割の明確化		B	複数の診療科の連携による複合疾患を持つ患者への対応や、在宅療養後方支援病院、災害対応病院としての役割を果たすなど、計画どおり取組を進めている。また、回復期リハビリテーション病棟の再開により急性期から亜急性期、回復期の機能を総合的に担う市民病院としての役割が一層期待できる。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	医療機能の明確化		●				
2	地域包括ケアシステムのなかでの役割の明確化			●			
3	災害等緊急時への対応			●			

大項目		評価結果					
(中期計画 第1－2) 高度な総合的医療の推進		A	課題であった耳鼻咽喉科常勤医師の確保をはじめ、総合的な医療提供に取り組むことができておらず、救急受入については日当直体制の確立により改善が図られている。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	急性期医療の総合的な提供		●				
2	救急医療の推進			●			
3	予防医療及び市と連携した政策医療				●		

大項目		評価結果					
(中期計画 第1－3) 利用者本位の医療サービスの提供		B	入退院支援や医療ソーシャルワーカーによる患者等へのサポート、受療環境の整備など、市民や患者等のニーズに対応した取組を行っている。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	医療における信頼と納得の実現				●		
2	利用者本位のサービスの推進				●		

大項目		評価結果					
(中期計画 第1－4) 地域とともに推進する医療の提供		A	登録医療機関を増やし、紹介率について目標値を達成するなど、後方支援病院としての連携強化が図られている。また、地域への啓発活動についても計画どおり取り組んでいる。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	地域医療支援病院としての役割の推進			●			
2	地域の医療・介護等との連携の推進			●			
3	地域社会や地域の諸団体との交流				●		

大項目		評価結果					
(中期計画 第1－5) 総合力による医療の提供		B	各病棟へ薬剤師・管理栄養士を配置する等専門サービスの提供や入退院支援にかかるミーティングの実施、DPC情報の共有などに取り組んでいる。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	チーム医療と院内連携の推進			●			
2	情報の一元化と共有				●		

大項目		評価結果					
(中期計画 第1－6) 医療の質の向上		B	クリニカルパス適用率の向上についてさらなる取組が期待される。自院に限らず地域の医療安全風土の醸成を目指した医療安全ネットワークの立ち上げ等は評価できる。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	継続的な取組による質の向上				●		
2	医療安全や院内感染防止対策の徹底			●			
3	コンプライアンス(法令・行動規範の遵守)の徹底				●		

大項目		評価結果					
(中期計画 第2－1) 医療職が集まり成長する人材マネジメント		A	麻酔科及び呼吸器内科の医師確保については課題であるものの、患者の増加につなげるための診療体制の充実については評価できる。看護師の確保や働きやすい環境の整備に取り組んでいる。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	必要な医療職の確保			●			
2	魅力ある人材育成システム				●		

大項目		評価結果					
(中期計画 第2－2) 経営管理機能の充実		B	理事長のリーダーシップのもと、経営戦略会議の定期開催やジョブローテーションによる人材育成、プロパー職員の主体的な活動として事務担当リーダー会議を設置する等、計画達成に向けた取組を進めている。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	役員の責務				●		
2	管理運営体制の強化				●		
3	事務職の役割の明確化と専門性の向上				●		

大項目		評価結果					
(中期計画 第2－3) 構造改革の推進		A	プロパー職員の育成を進め、人事評価制度については夏季一時金に反映し、運用を進めた。ベンチャーシステムの導入等購買・契約制度の改変に積極的に取り組み、経費の削減につなげた。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	組織風土の改革			●			
2	人事給与制度の整備				●		
3	購買・契約制度の改変			●			

大項目		評価結果					
(中期計画 第3－1) 業績管理の徹底		A	総合内科の新設や救急診療体制の強化、平均在院日数の適正化に取り組むことで収入確保に取り組むとともに、経費削減についても積極的に取り組んでいる。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	診療実績の向上による収入の確保			●			
2	支出管理などによる経費削減				●		

大項目		評価結果					
(中期計画 第3－2) 安定した経営基盤の確立		B	経常収支の黒字化と2年連続で資金残高の増加を達成した点は評価できる。				
小項目			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1
1	経営収支の改善			●			
2	資金収支の改善と計画的な投資				●		

7 第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績 小項目評価

別紙「地方独立行政法人明石市立市民病院第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績の小項目に関する評価結果について」を参照

8 第2期中期目標期間における評価の推移

	H28	H29	第2期 終了時見込
全体評価	B	A	A
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	B	B	B
1 市民病院の果たすべき役割の明確化	A	B	B
2 高度な総合的医療の推進	B	A	A
3 利用者本位の医療サービスの提供	B	B	B
4 地域とともに推進する医療の提供	A	A	A
5 総合力による医療の提供	B	B	B
6 医療の質の向上	B	B	B
第2 業務運営の改善及び効率化	B	A	A
1 医療職が集まり成長する人材マネジメント	B	A	A
2 経営管理機能の充実	B	B	B
3 構造改革の推進	B	A	A
第3 財務内容の改善	B	A	A
1 業績管理の徹底	B	A	A
2 安定した経営基盤の確立	B	B	B